

100周年記念式典

式 辞

上智大学 経済学部長
山 田 幸 三

本日ここに、上智大学経済学部は100周年の記念式典を開催することができました。理事長、学長、経
済学協会会長をはじめとして、経済学部をご支援くださる各位のご出席を賜りましたことに対し、学部教職員
一同、厚くお礼申し上げます。

経済学部は上智大学設立と時を同じく、「商科」として誕生した大学の源流の1つをなす組織です。
1928年に大学令による大学発足の際には商学部となり、その20年後の新制大学発足にあたって経済学部
として開設されました。現在では、経済学科と経営学科の2学科を擁し、一学年の学生定員は330名に
至っております。

私立大学の学部として国立大学と同等の学生数を維持し、「広い視野と先見性を持ち、国際的な場で活
躍するリーダーとなる人材を育成する」という学部の教育理念のもとで、グローバル社会に貢献する人材
を輩出できる教育と研究を充実させており、学部教育の根底には、カトリック系大学のもつ「人間の自由
な主体性」と「人間への寛容さ」を重視する精神が流れています。

経済学部は、一世紀におよぶ発展の歴史を大学そのものと共有してきました。ごく少数の志ある人々の
活動で始まった教育組織が総合大学の一部門へと発展を遂げ、ここに100周年を迎えられたのは学部に関
わるすべての人々にとって誇るべきことです。この記念すべき年を祝うとともに、先達の築いた伝統を受
け継ぎ、未来へつなげていかねばなりません。しかし、伝統を受け継ぐことは過去のやり方を守り続ける
という単なる墨守を意味しません。

「伝統というのは、伝承されたことをどう使いどう活かすか、育てるか」

「伝統は相続できません。受け継ぐものではありません。生活空間や生活習慣の変化に対して応えてい
くもの」

これらは、わが国が世界に誇る文化財を生み出し、四百年に至る歴史をもつ有田焼陶磁器産地の名工、
十四代酒井田柿右衛門と十四代今泉今右衛門の言葉です。

伝統を次の世代へ伝えていくには、その時代に合った新たな息吹を感じさせるような革新性を生み出さ
ねばなりません。その意味で、伝統と革新は表裏一体の関係にあり、伝統を継承していくためには新しい
試みが必要です。

経済学部はささやかではありますが、新しい試みを実現してきました。人材の採用は他学部に先駆けて
公募制を導入し、開かれた視点で教育と研究水準の向上に努めました。また、100周年を期に卒業生との

繋がり、絆をより強固にする全学的な方針で、学部学科同窓会の立ち上げが進んでいますが、学部創立75周年を契機に創設された上智大学経鷲会と経済学部との連携はそのモデルケースとされています。

今後、グローバル化が進行する社会において、「叡智は世界をつなぐ」というミッションの下、「世界に並び立つ大学」の一翼を担う学部として、フロンティアを目指す研究、学生と顔の見える関係の基幹教育、外部機関と連携した多彩な学びの機会をもった専門教育で一層の発展を図る所存です。経済学部が変わらずに発展していくには、何よりも学部スタッフが、その時代の先端的な教育と研究に取り組むべく、イノベティブであり続けることが必要です。100年の伝統を守り、受け継ごうとするには挑戦的であらねばなりません。新たな挑戦こそが伝統を守る証なのです。

今日は、次の100年に向けての船出の日でもあります。日本社会は、長きにわたるデフレからの脱却と東日本大震災からの復興という大きな課題を背負っており、そのなかで大学が果たす役割への期待も強くなっています。「日本社会の再活性化と大学の役割」という統一テーマによる記念講演会とシンポジウムが、希望と試練に満ちた次の一世紀への第一歩となることを願ってやみません。

最後に、本日ご列席の皆様におかれましても、どうか経済学部に一層のご支援とご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

以上をもって式辞と致します。

御清聴、ありがとうございました。